オリンピック パラリンピック観光推進特別委員会

行政視察報告書

１　日程

令和４年 10 月 26 日（水）～ 27 日（木）

２　視察先及び視察項目

	視察先	視察項目
1	琴平バス株式会社（香川県）	うどんタクシーについて
2	香川県	うどん県に関する取り組みについて
3	高知県	第２期高知県スポーツ推進計画 Ver.5 について

３　視察委員

○ 委員長	椿　　真　一	大田区議会公明党
○ 副委員長	深　川　幹　祐	自由民主党大田区民連合
○ 委　員	長　野　元　祐	自由民主党大田区民連合
	大　橋　武　司	大田区議会公明党
	清　水　菊　美	日本共産党大田区議団
	荒　尾　大　介	日本共産党大田区議団
	三　沢　清太郎	令和大田区議団（無所属５＋維新１）
	松　原　　元	令和大田区議団（無所属５＋維新１）
	小　川　あずさ	立憲民主党大田区議団
	馬　橋　靖　世	大田無所属の会
	荻　野　　稔	東京政策フォーラム

４　視察報告

項目ごとに各会派の視察報告を記載。

（１）琴平バス株式会社

◆視察項目
うどんタクシーについて

（自由民主党大田区民連合）

今回、香川県のうどんタクシーを視察しました。

これはうどんというワンイシューで集客を実施していることと、大田区では餃子、そして最近ではとんかつが有名になっていることから同じようなワンイシューの仕掛けをしたいと思ったからです。

内容として、うどんタクシーは一定の講習を修了したドライバーがお客さんの希望を聞きながら数店舗のうどん屋さんを巡るものです。

出汁も数種類、うどんの太さも３種類とお店によって差異があり、選択ができます。

コロナ禍前ベースだと運転手さんが年間100日はうどんタクシーを行うくらい外国人にも人気で、それ以外にお遍路参りのタクシーも実施しているとのことでした。

香川県では最大1,500軒、現在800軒とうどん屋も後継者不足で減少傾向が進んでおり、またコロナの影響を大きく受けたそうです。

大田区では餃子、とんかつとほとんどが大森、蒲田の駅周辺に集中しておりタクシーとの連携は難しそうですが、例えば本門寺や勝海舟記念館など見物できるところを間に入れてその前後で楽しんでもらうのであれば実現可能かと思います。

また、羽田空港所在地としては出発前最後の半日のお楽しみという企画も十分ありうることで、荷物を持っていてもタクシーであれば気軽に利用できて、最後は羽田空港に送ってもらうことも可能です。

そして、最後にひとっ風呂で大田区内の黒湯の銭湯に入るのもよいかと思います。

そういった話を区内タクシー会社と行うことも検討したいと思います。

そして、京急電鉄では「大田・川崎クラフトビールフェス」を開催するなどしており、京急や東急などと連携した仕掛けにすることなども広く捉えるなど、今後の検討を具体化するきっかけになる視察となりました。

（大田区議会公明党）

大田区には「羽根つき餃子」や「かつ丼」など、一般的にＢ級グルメと呼ばれて

いる名物があり、また、インバウンドの取り込みやマイクロツーリズムとしての新たな観光の取り組みとして可能性を見出すため「うどんタクシー」を視察。特に、インバウンドは、銀座など、高価な料理を求めてくる方々と、我々が一般的に食べている庶民の味を楽しむ方々の両極端に分かれている傾向があり、蒲田や大森、池上といった下町風情を残した本区は後者の戦略も十分考えられる。

当日は、茹でるところから自分で行う「中西うどん」と出来たうどんを店員さんが持ってくる一般的な「さぬき麺業」の２店舗を視察。

自分で茹でる「中西うどん」の感想は「楽しかった」に尽きる。

ゆでる場所の横にある水道の蛇口から「だし」が出てくるようになっており「だし」の量は自由に調整できる。少し大げさであるが、参加型イベントの醍醐味を感じた。

また、タクシーを利用することで、店で悩む必要もなく、運転手さんから、事前に茹でるコツや、作法なども教えて頂き、うどん屋さんをはしごする場合は「うどんタクシー」が讃岐うどんを堪能することができ、次回のリピーターに繋がると感じた。

さらに、少し時間が余ったので、運転手さんに相談したら、機転を利かせて近くの公園で調整をしてくださったり、タクシードライバーのレベルの高さも感じた。

後日、ドライバーの育成について問い合わせたところ、県としての支援はないが、タクシー会社の中で、自主的に資格制度を設け、ドライバーの育成を行っているとのこと。

行政だけでもなく、民間だけでもなく、行政と民間の両者両社の取り組みが成功につながっていると感じた。

今後は、本区の資源を今一度見直し、「うどんタクシー」で学んだことを活かし、新しい感覚で挑戦していきたい。

（日本共産党大田区議団）

高松空港から「うどんタクシー」に乗車し、うどん店を２軒訪問して実際に讃岐うどんを食し、運転手の方と車内で意見交換をしました。「うどんタクシー」は、うどんの行灯をタクシーに設置して運行されるということでしたが（乗車時は車内に置いてあった）、琴平、高松のそれぞれの発着コースが60分、90分、120分とあり、とてもユニークな内容となっていました。運転手になるためには筆記試験、実地試験、手打ち試験と３つの試験をパスしなければならず、簡単になれるものでないということでした。実際に車内でのやりとりで、運転手の方は私たちのほぼ全ての質問に対して淀みなく答え、深いうどん愛と豊富な見識を感じ取ることができました。乗客を楽しませるあらゆ

る工夫や取り組みは観光施策を推進するうえでも大きなヒントになると思いました。訪問したうどん店２軒のうち、１軒は好きなトッピングを選び、自分で麺をゆでることができる店で、地元の人たちが集う「本格的な」讃岐うどんのお店でした。

地域の名物を「これでもか」というくらいにＰＲし、実際に体験できる取り組みは観光施策として大変有効だと思いました。

（令和大田区議団（無所属５＋維新１））

10 月 26 日午前、大田区羽田空港から、日本航空にて香川県高松空港に移動。空港より香川県庁に向かう道中で、うどんタクシーなる仕組みを利用、視察を行った。うどんタクシーは、地元地域のうどん店に精通したドライバーが運行するタクシーで、ガイドブックに載っていないような店の紹介や、うどんに関する様々な専門知識を乗客に披露、写真撮影等のサービスを実施している。なお、うどん以外にも香川の観光名所回りも行っているとのことである。料金プランは 60 分 4,800 円、90 分 7,200 円、120 分 9,600 円で、１～３店を回る。

道中、ドライバーとのやり取りからは、専門的な知識を豊富に持ち合わせていることを理解することが出来た。そのため、案内された２店舗では、うどんが好物でない私でも、うどんを茹でる作業から行い、楽しく食することができた。

私の所感としては、今後、大田区は周辺観光スポット回遊、マイクロツーリズムの取り組みを進めていく必要を強く感じている。一方で、大田区の観光資源や特徴のある飲食等の特定分野にフォーカスして、うどんタクシーと類似の事業を行うことはいささか難しいと考える。大田区には、区民の区内回遊を推進する取り組みを継続するとともに、交通不便地域の解消も考慮した施策を行うことを期待する。

（立憲民主党大田区議団）

私たちが観光地に行く大きな楽しみのひとつはその地方の食事であり、そこに特化して、讃岐うどんを食べて回る、うどんタクシーは斬新で面白いアイディアだと感じました。

うどんタクシーには、今回、実際に乗せてもらいましたが、ドライバーが香川県の自然や観光名所、食について、幅広い分野のお話をしながら運転して、うどん名店に連れて行ってくれるというシステムになっています。

直接お店に連れて行ってもらえるし、乗っている間に観光の名所も教えてもらえたり、ドライバーに直接、まわりの景色や歴史について、質問したら答えてくれる仕組みなので、高齢者や子連れの旅にも安心だなと思いました。

連れて行っていただきました本場の讃岐うどんは、麺が違ってコシがあり、たくさんののせる選べる具材もあり、二軒回って食べましたが、うどん好きの私なんかは、まだ食べたいなと思ったくらいです。

うどんタクシーというネーミングはわかりやすいし、こういうふうに直接わかりやすいネーミングをするのも、惹きつけるコツなのだと感じました。

（大田無所属の会）

高松空港に降り立ち、まず目を引くのが「四国サークルビュー」と書かれた高松空港を中心とした円状の地図に、各地のご当地グルメが記された観光看板で、もちろん香川の一番はうどんである。すぐに空港内までドライバーが迎えに来てくれ、ジャンボタクシーへとご案内。地方空港の造りとしては珍しくないが、やはり到着ゲートから出てすぐ目の前に平置きの駐車場があって、車に乗り込めるというのもタクシー利用の手軽さを際立たせていると感じる。

ドアを開けるとすぐに目に飛び込んでくる大きなうどん鉢に大きな「うどん」の文字。どうやら普段は車上に装着するものを、ジャンボタクシーにという事で車内に配してくれたらしい。こうした気遣いも、温かい人柄と観光客に対するホスピタリティーの表れだと感じる。後日、委員長からの問いに対しお答えいただいた内容だが、人材育成においては企業努力として、うどんに関すること、観光、お遍路などの寺社仏閣に関する事などを段階的に試験を行いスタッフのスキルアップに努めているとの事で、非常に高いレベルの対応と感心した。

実際に２軒のうどん店をご案内いただき、実際にうどんを食させていただいたが、どちらも個性ある店舗で味もよく、ただの食事としてではなく、香川県の文化と風土を体験できる、非常に濃厚な時間となった。

振り返って大田区では、同様のサービスは無いと認識しているが、例えば区の観光施策として回遊型の観光施策を展開しており、羽田空港を発着とした同様のサービスの発展について研究してみても面白いかもしれないと感じる。

（東京政策フォーラム）

うどんタクシーと聞いて最初に思ったのは、はとバスのような装飾や色、由来などかと思っていた。うどんタクシーのＨＰ（https://www.udon-taxi.com/about/）を開いてみると「行きたいうどん店に行くのはもちろん、有名店、見つけづらい店、パンフレットやガイドブックに載っていない 通なうどん店もおまかせ！専門の知識をもったドライバーがうどんの歴史・文化から本場のうどんの食べ方・注文のシステムなどうどんに関する「うんちく」を語りながらご案内いたします。」と記載があり、うどんの名店などを案内する巡回型のタクシーだという事が分かった。

うどんタクシーには専任のドライバーがおり、うどん通として穴場の店や混雑具合によって別のお店を提案してくれたりもするそうだ。観光地、観光スポットを巡回するバスのタクシー版、飲食店（うどん店）という事なのだろう。なかなか面白い発想だと思った。需要との兼ね合いであり、自己満足で作ってしまえば失敗する類のサービスであるとは考えるが、特に自治体として特化した産業、観光があればうまく機能するのだろう。香川県に来てちょっとうどんを食べたいがいいお店がないか、という形で美味しいお店を探すのにちょうどいいのかもしれない。大田区にそういったお店、文化、観光資源があるだろうか。うまく連携が出来、羽田空港を抱える都市としての強みを活かせればいいと考える。

（２）香川県

◆視察項目

うどん県に関する取り組みについて

（自由民主党大田区民連合）

香川県といえば讃岐うどん、ということもあり、うどんタクシーで現場のお話を伺いつつお店を回りました。

その後、県の職員の方から話を伺いました。

「うどん県であることを高らかに宣言します」という香川県観光協会の特設ページでのうどん県のＰＲが始まったことは多くの人たちに鮮烈な印象を与え、改めて讃岐うどんの認識が高まりました。

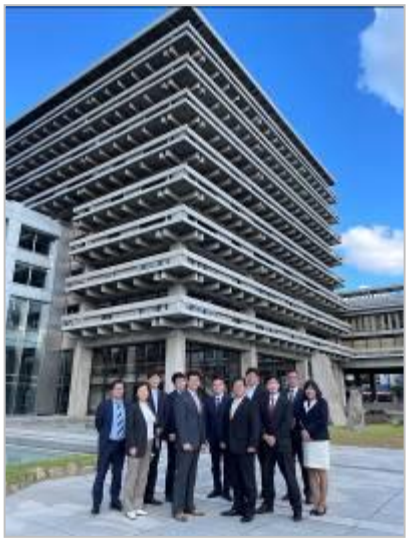
ただ今回、何よりも驚いたのはそのフレーズに続いて、「うどん県、それだけじゃない香川県」というキャッチフレーズがあったことです。

現実にはかき消されてしまっているのが実情だと思います。

大田区でも餃子、黒湯というフレーズでの売り込みをしていますが、世界的に知名度があるのが羽田空港、大田区は知らないけど羽田空港は知っているという、ある意味同じ状況なのかなと思いました。

そういう意味でも大田区ではなく、羽田空港区！といって小さく大田区といったアピールをしながら、餃子、黒湯、とんかつを打ち出すなど大田区という名称にこだわらない姿勢が必要だと思いましたし、うどん県を見習い観光客に結びつける戦略を練りたいと思いました。

（大田区議会公明党）



香川県と言えば「讃岐うどん」と、全国的な知名度でありますが、平成23年に香川県を「うどん県」に改名すると言う設定で、架空の「うどん県」副知事に、香川県出身の俳優要潤さん、木内晶子さんが任命され、さらに「うどん以外の産品や観光地等の魅力を国内外にＰＲする」として、「うどん県。それだけじゃない香川県」プロジェクトを行政主導でスタート、ＰＲ映像の作成、インターネットでの情報発信、タイムリーな観光情報など、ネット上にもトップ表示になるよう積極的に取り組みをされ、シェア、リツイートなど多くの方々に賛同を頂き、クチコミも広がり、特設サイトには１日17万件のアクセス状況に、21万件に至ったときにサーバーがダウンをするほどの状況、また広告の効果は７億6,600万円と、「うどん県」に改名というニュース性のある話題、地元出身の俳優９人のインパクト、そして積極的な情報発信による効果はとても大きいことを実感致しました。

また、平成24年には「高松駅」を「さぬき高松うどん駅」に改名もされました。

そうした中、県内企業等において、県との連携や独自にうどん県プロジェクトを活用される動きもあり、「うどん県」のロゴを無料でダウンロードできるコーナーを県の公式サイトに設けるなど、協力連携も大きな力になっていることを実感致しました。

こうした柔軟な発想と、思い切った取り組み、積極的な発信、連携、俳優の方々の起用やご協力など、県民の皆様が楽しく面白く、また自分たちが暮らす県を誇りに思えるような取り組みが、結局は県外へのアピールにも繋がり、県外からも多くの方々が訪れる結果になっていることを学びました。大田区における魅力発信に活かしてまいりたいと思います。

（日本共産党大田区議団）

香川県庁にて「うどん県。それだけじゃない香川県」プロジェクトの取り組みと「うどん県」に関する取り組みについて視察しました。

香川県は都道府県魅力度ランキングで下位に位置付けられていることが多くイメージアップの一環として俳優の要潤さんを起用しての「うどん県」ＰＲを開始し、この取り組みによって大幅に県のイメージアップを成功させました。基本的にうどんを基軸にしてＰＲを進めていることに、県の強いこだわりを感じるとともに、プロジェクトの戦略性も素晴らしいと感じました。観光サイトも大変見やすく、香川県の魅力が感じられるものになっていて、「行ってみたい」気持ちにさせるものとなっていました。

また、うどん専用小麦として開発された「さぬきの夢」の促進にも力を入れており、収穫量、作付面積も増えつつあると説明がありました。香川県は米と小麦の二毛作を行っており、小麦の栽培に適した地域だということですが、讃岐うどんで使用される小麦は今なおオーストラリア産が多いとのことでしたが、地産地消の観点からも、この取り組みは非常に意義があると感じました。

（令和大田区議団（無所属５＋維新１））

10 月 26 日午後、高松空港から、うどんタクシーを利用して香川県観光振興課を訪れ、表題の件の説明を受けた。日本全国で知名度が最下位であったことから始まった一連の事業によって、香川県は、最新の統計で全国 14 位まで知名度を押し上げている。香川県は平成 23 年度から「うどん県」のＰＲを始め、最初期は有名タレント起用、その後、ＷＥＢ、ＳＮＳ戦略に重きを置き、極力タイムリーな情報提供を継続して実施しているとのことである。近年は大手企業とのタイアップや、ポケモンなどのアニメキャラクター（ヤドン）との連携に注力しているとのことであった。

「うどん県」のキャッチフレーズを用いたブランドプロモーションによる香川県の認知度向上と、中長期的にはデジタルマーケティング事業により県内に国内の旅行客を増やすことに成功している。

私は担当者の説明から、団体客だけでなく個人客の集客にも余念がない印象を受けた。

また、香川県の認知度向上という目標と、うどんのＰＲを同一線上にまとめることにより、極めて多方面に事業を同時に展開している。「全国年明けうどん大会」事業や「世界麺フェスタ 2008in さぬき」等の大規模なイベント企画とその広報集客、そして香川県オリジナル小麦「さぬきの夢」を使用した「さぬきうどん」の製造技術公表と利用拡大等の取り組みは、体系化されており無駄がなく感じた。特に香川県民に対しての香川県の広報が浸透していることは、今後の他県への波及に大きな後押しになることに違いはない。果たして、大田区民が大田区を他の住民に説明するときに、如何なるワードが思いつくのか、私には見当がつかない。大田区は今後改めてシティプロモーションを再起するときは、行政主導で築くべき区のイメージを定めて、中長期的にブレずに実績を積み上げていくしかないと考える。

（立憲民主党大田区議団）

かねてより、香川県といえば讃岐うどんというのは、有名でした。

それを逆手に活かし、平成 23 年にうどん県への改名と、香川県出身の人気俳優、要潤さんを起用し宣伝されたのは非常に印象的でした。

今では多くの人にうどん県という呼び方は認知されており、それもあって、実際に多くの観光客を呼び込んでいて、ネーミングが呼び込みに成功した例で、学ぶべきところは大きいと思います。

今回お話を聞いたところ、香川県は年越しそばに対して年明けうどんと銘打って、さらにうどんの消費を促したり、讃岐うどんのために生まれた小麦を「さぬきの夢」という名前で積極的にＰＲしていくなど、積極的にうどんをキーワードに政策を進めていますが、一方で、オリーブや骨付鳥、また、アートや風光明媚な瀬戸内の景色など、まだまだ紹介したい香川県の魅力を発信して、更なる観光客の呼び込みにも力を入れています。

人は一度訪れた観光地は、また景色を見たいとか、また食べたいとか、思い出をたどるとか、再訪する傾向もあり、まずは最初に訪れてもらう、そのためのヒントになりました。

大田区も、何か強いひとつのキーワード、たとえば羽田空港のような有名なものを打ち出すコピーで、観光に立ち寄ってもらえる街にしていかれたらと考えさせられました。

（大田無所属の会）

平成 23 年から取り組み開始。全国知名度最下位からの脱却を目指し、香川で最も全国的に知名度の高かった「讃岐うどん」のブランド力を活用することとした。

また、訴求力を一気に盛り上げた架空の「うどん県」への改名ＰＲなどが奏功し、ＳＮＳや各種メディアで一気に全国知名度が上がっていった。

香川県の認知度を上げる目的の「ブランドプロモーション」と併せて、香川県への旅行客を増やす目的の「デジタルマーケティング」にも注力し始めている。

うどん県のブランド力の向上には長期的なビジョンが必要との認識をお持ちで、様々な媒体を活用した取り組みを継続的に行っていることが強みに繋がっている

と感じる。

新たな取り組みとして2008年に香川で開催された「世界麺フェスタ2008in讃岐」にて「年明けうどん」文化の普及を目指し施策展開を行ってきている。

年越しそばに続く、新年の幸福を願う紅白のうどんと具材を使用した一杯を１月15 日までに食べるという新しい文化であり、県内のうどん店とも協力しながら普及啓発に注力している。

ここまでの取り組みからも、香川県人の方々のうどんに対するリスペクトと愛情をひしひしと感じる。

またこの間、うどんの原材料となる小麦が病害にあった際には、それをバネとして「さぬきの夢」ブランドの小麦を開発し、県内のうどんに使用することで、シビックプライドの醸成や、品質の向上に寄与してきており、益々愛情を感じるところである。

瀬戸内のアート、海産物、小豆島のそうめんやオリーブなど、香川県のだけじゃない取り組みが今後も非常に面白いと感じる。

（東京政策フォーラム）

「うどん県に改名しました」。香川県観光協会が俳優の要潤氏を起用して表明して話題になったのは2011年だった。

当時のメディアでは「マイトリップかがわのトップページに「うどん県、それだけじゃない香川県」と書かれた特大バナーが出現。クリックすると、「うどん県」か「香川県」か選べるようになっている。ここで「香川県」を選ぶと、香川県の公式ページへ。あえて「うどん県」を選ぶと……。

「私たちはうどん県です」と高らかに宣言する特設ページがオープン。「うどん県副知事」に就任した俳優・要潤さんが「うどん県へようこそ」と迎えてくれる。うどん県へ改名したことを知らせる動画もあり、なかなか手が込んでいる。」と紹介されていた。

出展：「うどん県に改名しました」香川県観光協会の特設ページがうどん推しすぎですごいＩＴメディア

「さぬきの夢」うどん技能グランプリの開催により、うどん作りの職人、名店の紹介、前述のうどんタクシーなど、メディアへのＰＲだけでなく実際に県内の業者が紹介、表彰などをされる仕組み、県内の名店を回りやすい仕組みなども考案されており、実態が伴う取り組みであると感じた。年越しそばならぬ年明けうどんとして、2009 年の正月から新しい香川県初の文化も生み出しているだけでなく、全国年明けうどん大会という大会を開催。2019年は二日間で45,900人が来場しており、コロナ禍で規模の縮小、中止などもあったが現在も継続している。香川県の「うど

ん県」の取り組みは産業や文化を支援する際には実態を伴うＰＲだけではない自治体の一丸となった取り組みが必要であることを示唆する内容の実績であると考える。

（３）高知県

◆視察項目

第２期高知県スポーツ推進計画 Ver.5について

（自由民主党大田区民連合）

本委員会は高知県庁にて「第二期高知県スポーツ推進計画 Ver.5」について、また高知県立春野総合運動公園の現地視察を行った。高知県では「スポーツを通じて健やかで心豊かに、支え合いながら生き生きと暮らすことのできる社会」を目指す姿として施策に取り組んでいる。スポーツ参加の拡大や競技力の向上、スポーツを通じた活力ある県づくりを柱に、あらゆる世代や高齢者、障がい者なども包摂した健康社会の実現を目標とするものである。これらの施策の中心となるのが県立春野総合運動公園であり、公式試合に準ずる設備や、一般でも利用しやすいトレーニング施設などを完備している。同時に健康管理などにも重きが置かれ、身体データの測定やそれに基づくオーダーメイドのトレーニング指導などにも対応している。広く県民に門戸を開き、また遠征試合なども積極的に受け入れる中核機能を果たす施設の整備は、オリンピック・パラリンピックのレガシーを活用していかなくてはならない本区としても運営も含めよく研究していく必要があると考える。

（大田区議会公明党）

高知県は、平成30年に県民がスポーツを通じて健やかで心豊かに、支え合いながら生き生きと暮らすことの出来る社会の実現を目指し「第２期高知県スポーツ推進計画」を策定、さらに新型コロナウイルス感染症の影響により変化するスポーツ活動に対応するため、デジタル技術の活用、多様化する地域の課題ニーズに応じて県の自然環境を生かした取り組みなどを重点強化する「第２期高知県スポーツ推進計画 Ver.5」の取り組みを開始されました。

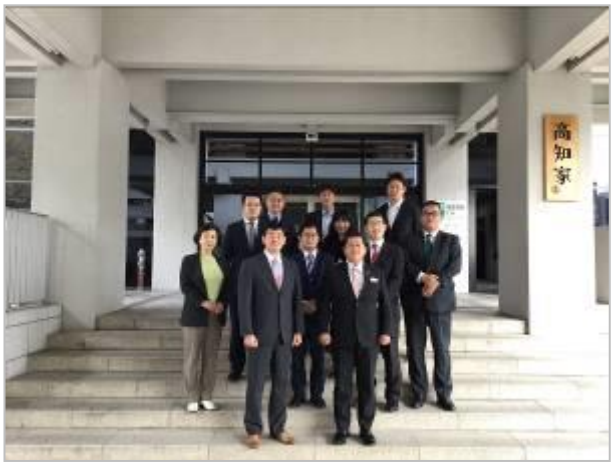
高知県では、スポーツ大会・合宿の開催を応援する取り組みにも積極的に取り組まれており、更にオリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツ振興の取り組みも国際的な繋がりを大切にし、チェコ共和国、シンガポール共和国、オランダ、オーストラリア、トンガ、ハンガリーなど多くの国と連携、種目もカヌー、陸上、

水泳、ボート、ソフトボール、バドミントン、卓球、自転車、サッカー、ラグビーなど、多くのスポーツ選手の受け入れを行っており、高知県では地元出身のオリンピアン、パラリンピアンも輩出され、メダリストも生まれており、現在車いすバスケットの合宿誘致も進めておられるとのことで、積極的な取り組みがお聞き出来てとても参考となりました。

また、高知県スポーツ科学センターも実際に視察させて頂き、県民が自由に利用できるセンターでは、一般体力測定、専門体力測定が出来、専門家による各種サポートも受けられる取り組みになっており、県民の健康維持に向けて、とても充実しており参考になりました。

大田区民の健康維持、心豊かに健やかな生活が出来る取り組みを目指し活かしてまいりたいと思います。

（日本共産党大田区議団）



「第２期高知県スポーツ推進計画」についての説明をいただき、春野総合運動公園と園内の高知県スポーツ科学センターの現地視察を行いました。

「第２期高知県スポーツ推進計画」では「スポーツツーリズム」に力を注いでいることが印象的でした。プロの野球、ゴルフ、ラグビー等の大会や合宿やアマチュアを含むサイクリングやマラソン大会の開催は観光コンベンション協会との共同とのことでした。観光を重視した取り組みに思えたので、県民の健康増進のためのスポーツ施策について質問したところ、健康推進課等との連携で高齢者パスポート事業の説明をいただきました。県民の健康・スポーツに関する意識調査からも今後も努力していくとの見解に期待します。現地調査でのスポーツ科学センターは設備も素晴らしく、対応される職員も好印象でした。プロだけではなく一般県民にも広く活用でき、筋肉量などが可視化できる機器はよりスポーツに楽しみ健康増進のための施設となると思います。大田区においてもこのような施設があったらと思いました。都心は土地活用が一番の問題でありますが、スポーツで生き生きした生活へ、またスポーツで健康へと、モチベーションを上げていく課題はいずこも同じであると思います。区民がスポーツに楽しみ健康増進につながるよう、今回の視察を生かし大田区において参考にしたいと思います。

（令和大田区議団（無所属５＋維新１））

オリパラやプロスポーツなどのスポーツ合宿誘致と地域住民の健康増進について学んだ。

高知県はその温暖な気候を活かし、様々な競技スポーツ合宿誘致に力を入れている。特にプロ野球は沖縄や宮崎と並んで高知はオフシーズン合宿のメッカとなって

いる。今回は西武ライオンズも合宿地として利用している春野総合運動公園に伺ったが、広大な敷地内に野球場をはじめ国際大会仕様の各種競技場が多数あり、力の入れ具合を感じることができた。また同公園内にある高知県スポーツ科学センターでは自分の身体の現状を知る体組成計がプロアスリートだけでなく一般の方も受けられるようになっており、地域住民の健康増進にも一役買っていた。

大田区は四季を通じて温暖な気候というわけではないが、羽田空港を擁するという地の利はある。ＭＩＣＥの観点からも臨海部に国際大会基準のスケートボードパークを設けたり、平和島や城南島などの倉庫街にスケートボードストリートを整備したりすることは大田区に新たな付加価値をもたらす可能性があると考える。

（立憲民主党大田区議団）

健全で生き生きした社会を目指して、高知県では、スポーツ推進計画を進めており、平成 30 年から第二期スポーツ推進計画を策定しているそうです。

障がい者を含めた、あらゆる世代の健康増進のために、スポーツ参加の拡大、医科学的見解をも取り入れた競技力向上、自然を活かしたスポーツ競技や合宿の誘致など、施策の柱を定め進めているとのことです。

実際に見せていただいた春野総合運動公園は、広大で自然豊かな環境でスポーツができるようになっていて、各競技場はそれぞれ距離もあり、思う存分、競技を楽しめそうです。

その中の体育館にある、高知県スポーツ科学センターでは、最新の体力測定機器が揃っており、１時間ほどで体力測定ができます。

さらに、プロやセミプロの選手にも対応できる測定機器もあるし、トレーニングや栄養、メンタルのサポートも充実しているようで、さまざまなメニューが紹介されていました。

また、スポーツ大会や合宿の開催も応援しているそうで、たとえば、県外からの 20 泊以上の合宿の場合、一泊あたり 1,000 円から助成もしているとのことで、この自然豊かな環境で、スポーツができるようにとの支援も行き届いています。

スポーツを骨子にした多岐にわたる、細かいところまで行き届いた施策がなされていることが、大変勉強になりました。

（大田無所属の会）

高知県として、いわゆるスポーツ推進の基本計画として本計画を策定して以降、県民のスポーツ振興、スポーツツーリズムとしての取り組み、プロスポーツの誘致など、様々な取り組みをリバイスしてきている。

また、この間、オリンピック・パラリンピックを契機として生まれた、事前合宿地としての成果を活かし、チェコ共和国やシンガポール共和国などとスポーツ交流協定を結ぶなど、新しい取り組みもスタートさせており、県内の高校チームと他国チームとの強化試合や文化交流を行ったり、他国のプロ指導者を招へいして指導者研修会を開催するなど、単なる「運動」の枠を超えたスポーツ振興へと拡がりを見せている。

スポーツ選手のサポートとしても深度化を図っていて、アスリート向けのトレーニングサポートやメンタルサポートなどの専門的な分析を受けることができる。また、高知県スポーツ科学センターにおいてはアスレチックトレーナーを常駐させ、一般の方も利用できる様々な専門的測定を気軽に受けることができる体制も整っている。

高知県としての独自の取り組みとしては陸海の豊富なロケーションを活かしたトライアスロンやカヌー、マラソン、サーフィンといったスポーツにおいて、強みを活かした取り組みをしてきており、今後も様々な局面を捉えて拡充していくお考えとのことで、同様に陸海のロケーションを有する大田区としても、様々な点で参考になる面が多く注視していきたい。

（東京政策フォーラム）

最終日に視察をしたのは高知県だった。高知県スポーツ科学センターを視察させていただき、施設での設備や取り組みなどを見させていただいた。一般体力測定のほか、専門体力測定も行っており、スポーツに専門的に取り組む方にとって有意義な施設であると感じた。各種サポートとして、トレーニングサポート、栄養サポート、メンタルサポート、動作分析、ゲーム分析とサポートも受けられ、隣接する高知県立春野総合運動公園と合わせて、スポーツに対する大きな期待と取り組みを感じた。実際にオリンピック・パラリンピックを前後して海外の様々な国と連携、合宿や強化試合、交流などを受け入れており、ラグビーＷＣの事前キャンプなども受け入れている。そういう姿勢からもアマチュアトップレベルのスポーツの誘致、交流の場として県のスポーツ施設を活用し、振興していく姿勢が垣間見えた。

八方美人のようにすべてに取り組み、発信するのは難しいが、専門分野を決めてそこに注力するのも自治体の施策の中で重要なのではないかと感じた。